

三島中洲

【みしま ちゅうしゅう】

1830(天保元 .12. 9) ~ 1919. 5.12(大正 8)

漢学者、詩人。名は毅、字は遠叔。号は桐南、のち中洲または絵莊という。窪屋郡中島村に生まれる。

14歳で山田方谷に従学する。29歳のとき昌平黌に入り佐藤一斎に学ぶ。30歳で備中松山藩に仕官し、藩学有終館会頭となり、のち学頭に進む。文久元年(1861)藩学教授の傍ら家塾の虎口溪舎を小高下に起こし、明治初年最も隆盛を極め、学徒は十二藩に及び塾舎常に60~70人を越す。

明治5年(1872)朝廷の召しに応じ法官となる。明治10年大審院判事を退職し漢学塾二松学舎(現二松学舎大学)を創設する。後に、東京帝国大学教授、明治29年東宮侍講となる。大正4年(1915)宮中顧問官となる。

著書に「霞浦游藻」「三日文詩」「論学三百絶」「中洲詩稿」「中洲文稿」「虎口存稿」など多数がある。

明治の漢学者・教育者。名は毅(キ)、字は遠叔、通称は貞一郎、別号は桐南・絵莊。備中(現：岡山県)生れ。
山田方谷、伊勢の斎藤拙堂(セツドウ)に学び、江戸に出て昌平黌(ショウヘイコウ)に入学し佐藤一斎・安積艮斎(アサカ・コンサイ)に師事。松山藩に仕え藩学有終館の会頭となる。
明治維新後は新治裁判所長・大審院中判事となる。
1877(明治10)官を辞して東京麹町の自宅に二松学舎を創立。
のち東京高等師範学校(後の東京教育大学)・東京帝国大学古典科の教授や東宮侍講・宮中顧問官となる。
著書は『詩書輯説』・『古今人文集』・『論文三百絶』など。

(4) 名は毅。

(19) 名は毅(ツヨシ)。

(*) 本名「毅」の読み「き」は親族の三島正明氏による。

参照文献：三島正明著『最後の儒者』。

「日本人名辞典」より抜粋

- 幕末辞典 -